学校番号	３１２

令和２年度　芸術（書道）科

教科	芸術	科目	書道Ⅰ	単位数	２単位	年次	１年次
使用教科書	「書道Ⅰ」　（東京書籍）						
副教材等	なし						

１　担当者からのメッセージ（学習方法等）

小学校、中学校の書写の授業で学んだことを発展させて用具用材の違いによる表現の違いなどを学びましょう。筆で文字を書く体験を通して、筆の機能を生かして書くことが出来るようになりましょう。作品におす姓名印や身近に飾れる作品を作ることで、自己表現の一つとして書に親しみましょう。

２　学習の到達目標

書道の幅広い活動を通して、生涯にわたり書を愛好する心情を育てるとともに感性を高め、書写能力の向上をはかり、表現と鑑賞の基礎的な能力を伸ばし、書の伝統と文化についての理解を深める。

３　学習評価(評価規準と評価方法)

観点	a:書への関心・意欲・態度	b:書表現の構想と工夫	c:創造的な書表現の技能	d:鑑賞の能力
観点の趣旨	書の創造的活動の喜びを味わい、書の伝統と文化に関心を持って、主体的に表現や鑑賞の創造的活動に取り組もうとする。	書の良さや美しさを感じ取り、感性を働かせながら自らの意図に基づいて構想し表現を工夫している。	創造的な書表現をするために基礎的な能力を生かし効果的な表現の技能を身につけ表している。	日常生活の書の効用や書の伝統と文化について幅広く理解し、その価値を考え書の良さや美しさを創造的に味わっている。
評価方法	観察 レポート	観察 レポート 提出作品	観察 レポート 提出作品	観察 レポート 提出作品

上に示す観点に基づいて、学習のまとまりごとに評価し、学年末に５段階の評定にまとめます。
学習内容に応じて、それぞれの観点を適切に配分し、評価します。

４　学習の活動

学期	単元名	学習内容	主な評価の観点				単元(題材)の評価規準	評価方法
			a	b	c	d		
1学期	書写から書道へ	・書写の確認(書の導入) ・用具用材、扱う方法・態度の学習 ・姿勢・執筆法の学習	○	○	○	○	a:書写の発展として意欲的に学ぼうとしている。 b:用具用材や姿勢・執筆法による表現を工夫している。 c:用具用材の扱い、姿勢・執筆法を身に付け表現している。 d:芸術としての書の良さや美しさを感じている。	観察 レポート 提出作品
	漢字仮名交じりの書	・漢字と仮名の調和、用具用材による表現の学習 ・紙面構成の効果の学習 ・生活の中の書(団扇・硬筆)	○	○	○	○	a:漢字と仮名の調和や紙面構成に関心を持っている。 b:用具用材や紙面構成による表現を工夫している。 c:用具用材の特性を生かし、効果的な紙面構成で表現している。 d:生活の中の書の効果や美しさを感じている。	観察 レポート 提出作品
2学期	篆刻	・用具用材・手順・書体(篆書)の学習 ・諸作品に押印する姓名印の製作	○	○	○	○	a:篆刻に関心を持ち、意欲的に取り組んでいる。 b:文字の姿や配置が美しく見えるよう工夫している。 c:製作の各段階で基礎・基本的な技能を身につけ表現している。 d:篆刻について知識を深め、その美しさを感じている。	観察 レポート 提出作品
	漢字の書	・主に楷書と行書の学習 ・画仙紙の作品制作 ・表具・表装(グループ作業を含むカレンダー製作)	○ ○	○	○	○ ○	a:楷書と行書の違いや美しさに関心を持ち、意欲的に取り組んでいる。 b:意図に応じて表現を構想し工夫している。 c:用筆・運筆を理解し諸作品として表現している。 d:書体の違いや表具について理解し、漢字の書のよさや美しさを感じている。	観察 レポート 提出作品

3学期	仮名の書	・仮名の成立、用具用材、用筆法の学習 ・連綿・散らし書きの学習、及び色紙型の作品制作	○	○	○	○	a:仮名について感心をもち、用筆法を理解しようとしている。 b:連綿・散らし書きを構成に生かす工夫をしている。 c:用筆法を理解し効果的な紙面構成で表現している。 d:仮名や日本の文化について知識を深め、その良さや美しさを感じている。	

※　表中の観点について　a:関心・意欲・態度　　b:思考・判断・表現
　　c:技能　　d:知識・理解

※　年間指導計画（例）作成上の留意点

・原則として一つの単元（題材）で全ての観点について評価することとなるが、学習内容（小単元）の各項目において特に重点的に評価を行う観点（もしくは重み付けを行う観点）について○を付けている。